

平成28年度 施策評価シート

基本目標	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120 特色ある、多彩な魅力や個性を発信する
施策	121 すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める
施策の目標	新しい魅力をもった観光地や名産品を楽しむために、これまで以上に多くの人々が「すみだ」を訪れて、快適に過ごしています。

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
観光協会等のホームページ年間アクセス数	万回	100	61	83	87	60	85
観光ガイドの案内客数	人	4,500	1,638	3,321	3,519	3,391	4,374

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
隅田川花火大会の観覧客数	人	901,000	954,000	788,000	965,000	963,000

3 目標と現状(実績)についての分析

<p>指標の推移・施策の課題や問題点について記述</p> <p>伝統ある花火大会として、昭和53年に隅田川花火大会の名称で復活して以来、東京の夏の風物詩として、例年90万人を超える観覧客がある。</p> <p>本催しは、都区民をはじめとする多くの方々に憩いの場を提供するとともに、周辺地域経済の活性化に寄与するなど事業効果が非常に高い。しかし、協賛企業の撤退や協賛規模の縮小による収入減に加え、物価高騰等に伴う支出増が見込まれることから、収入の確保と支出内容の見直しが課題である。</p>
--

4 今後の施策の運営方針

<p>施策の戦略的方向性（選択肢に を付ける）</p> <p>(1) 優先的に資源投入を図る。</p> <p>(2) 現状維持とする。</p> <p>(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。</p> <p>(4) 資源投入の縮小を図る。</p>
<p>【上記の判断理由】</p> <p>本事業は、過去30数年の実績のもと、全国でも代表的な夏の風物詩として認知され、都区民から親しまれている。今後も伝統ある花火大会として、特に安全面と資金面に留意しつつ、現状維持で事業を展開していく。</p>
<p>【今後の具体的な方針】</p> <p>国際観光都市「すみだ」のシンボル事業のひとつであることから、更なるPRの充実に努め、国内外を問わず来街者の増加を図る。なお、実施にあたっては、収支状況の改善を図るため、新規協賛企業の獲得に力を入れていく。</p>

事務事業名	隅田川花火大会事業		所管課・係	文化振興課 文化行事担当
施策	121	すみだの魅力を広め、もてなしの心でまちに人を集める	連絡先	5608-6180
予算書名称	隅田川花火大会経費		執行実績報告書ページ	59

1 事業の概要

江戸時代の「両国川開き」の伝統を継承する花火大会として、昭和53年に復活して以来、今年で39回目を迎える。 【主な足跡】 S53年度 第1回：1万5千発 799,000人 H26年度 第37回：2万発 965,000人 H27年度 第38回：2万155発 963,000人	事業開始年度	昭和53年度
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
都区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
都及び関係五区(墨田・台東・江東・中央・荒川)で実行委員会を構成し、警視庁・消防庁をはじめとする関係機関の協力を得て、両国の川開きを起源とする伝統的な花火大会	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
潤いと憩いの場を提供するとともに、地域経済を活性化させる	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	年1回の開催	回数	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	1
成果指標 (目的に対する指標)	来場者数	人	目標値	950,000	950,000	950,000
			実績値	788,000	965,000	963,000
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
昭和53年に隅田川花火大会として復活した伝統の花火大会は、日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。例年、90万人を超える観覧客があることから、地域経済活性化の役目も十分に果たしている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	区民生活費	項	文化振興費	目	区民行事費
27年度歳出予算額	29,025	27年度歳出決算額	29,000	27年度執行率	99.9%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源		
	無	無	無	有		29,025
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	隅田川花火大会実行委員会への補助金					
27年度実績額	28,070	28年度予算額	28,070	対象	隅田川花火大会実行委員会	
開始年度	昭和53年度	根拠法令			単年度決裁	
算定基準	単年度補助			補助率	隅田川花火大会開催経費の予算補助	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会であることから、シティプロモーションのためには欠かせないツールである。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>当日のテレビ東京による中継のほか、大会前には多くの情報誌に、花火大会とともに区内の産業・観光資源が紹介されており、地域の経済活性化に寄与している。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>都及び関係5区との共同事業であり、実行委員会による運営を行うなど、協議・分担しながら効率的に実施できている。</p>				
(4)現状と課題	<p>協賛企業の撤退や協賛規模の縮小等による収入減に加え、火薬や設営資材等の高騰により支出額が増加していることから、新規協賛企業の確保、支出内容の更なる見直しが課題である。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>企業協賛金の減少や、年々困難さが増している警備・交通整理対策等の大きな課題もあるが、関係者が多い事業のため、大幅な変更は難しい。今後も、観客の安全確保に向けた取組みの強化を図りながら事業を継続して実施する。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>引き続き観客の安全確保を第一に、伝統ある行事を将来に亘って継続していくため、新たな収入源が確保できるよう計画的に新規協賛企業の開拓を進めていく。</p>		

平成27年度区議会の質問状況	時期	平成27年決算特別委員会
	要旨	特定観覧席の増加について